

## 新年を迎えて

年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年、改正教育基本法に示された教育の基本理念の実現に向けて、政府として初めての「教育振興基本計画」が閣議決定されました。

また、昨年3月の小・中学校における学習指導要領の改訂に引き続き、高等学校及び特別支援学校についても、新学習指導要領（案）が示されたところですが、「生きる力」の育成、すなわち「知・徳・体」のバランスのとれた人格の形成を目指して、今年は、昨年から準備し、創り上げてきたものをいよいよ実践していく年になると考えております。

こうした中、本府においては、京都式少人数教育の推進はもとより、児童生徒に「質の高い学力」を身に付けさせるため、その基盤となる『言語力』の向上及び生活習慣の確立と学習習慣の定着のための方策が「まなび教育推進プラン」において示されたところです。今後は、プランの実現に向けた積極的な取組に努めるとともに、府総合教育センターと学校が共同で取り組んでいる授業の工夫改善に向けた新たな研究をさらに進め、学力向上へ全力を挙げて取り組んでまいります。

また、いじめや不登校を解消するための取組をはじめ、望ましい食習慣を形成する食育の推進や、豊かな人間性や社会性を育むための様々な体験活動などの充実を図ることにより、子どもたちの夢や思いやりの心、健やかな身体を育ててまいりたいと考えております。

子どもたちの教育に最も深く係わる教員については、資質能力向上のための研修や小学校教員を目指す学生を対象に「教師力養成講座」を開講するとともに、教員が子どもと向き合う時間を確保するため、運動部活動などへの地域人材の活用や退職教員の優れた能力の活用、事務的作業の効率化などを図ってきたところですが、今後も、更なる施策の充実を図り、学校や教職員を全力で支えてまいりたいと考えております。

さらに、多様で活力ある教育を展開するために、今春「城南菱創高等学校」が開校するほか、平成22年度には、八幡・久御山地区に障害のある児童生徒と高校生が日常的に交流が図れる全国初となる特別支援学校を、また、平成23年度には、宇治・城陽地区に府の特別支援教育の拠点校としての機能を持つ特別支援学校を開校する準備を進めているところです。

こうした教育改革を進めていくためには、社会総がかりで教育に当たることが何よりも重要であります。そのためにも「親のための応援塾」をはじめ、家庭・地域の教育力の向上に向けた取組を進めるとともに、地域社会全体で学校教育を支援することも必要となってきたおり、地域の方々を中心となって取り組んでおられる「学校支援地域本部」をはじめとした地域社会との結びつきを大事にした取組を進めることが大切であると考えております。

また、昨年は源氏物語千年紀に関連した文化的な事業が府内各地で催されたところですが、今秋には、府内を会場に高校の芸術文化振興に寄与する近畿高校総合文化祭が開催される予定であり、その成果を平成23年開催予定の国民文化祭につなげてまいりたいと存じます。

今後は、子どもたちに求める将来像などについて、府民の皆様方の御意見もさらに広くうかがいながら、京都府の教育の振興を図ってまいりたいと考えており、各市町村教育委員会や関係機関との緊密な連携のもと、子どもたちが健やかに育ち、21世紀の頼もしい担い手へと成長していくよう、全力を尽くしてまいります。

結びに当たりまして、皆様のますますの御健勝、御多幸をお祈り申し上げますとともに、京都府の教育のさらなる発展に向けまして、今後とも、一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。